

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100253		
法人名	一般財団法人 弘潤会		
事業所名	グループホーム ほのぼの天満		
所在地	宮崎市谷川3丁目1-2		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanistrue&jiyosyoCd=4590100253-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宮崎市内、天神山の下の高台に位置しており、春には天神山の桜が見えます。天神山での地域の花見には家族も一緒に参加させて貰っています。又、夏には窓から宮崎市納涼花火大会の花火も見え、一年中を通して季節を感じられる環境にあります。近くには保育園もあり、どちらも散歩コースになっています。自治会への加入もあり、にこにこサロンへの参加や、夏祭りなどでは神輿や獅子舞も来ます。以前に比べ利用者様の介護度が下がったこともあり、レク時の運動や個別ケアでの歩行訓練、外出等の活動もしやすくなりました。洗濯物をたたんだりお盆拭き等の作業も出来る方が増えました。時間があれば皆様と一緒に唄ったり、民話を聞かれたり楽しい時間を過ごしてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、宮崎市内有数の桜の名所である公園と隣接した高台にあり、春は花見、夏は納涼花火大会が展望できる場所に立地している。理念について全職員で話し合い、これまでの理念を見直し、新しい理念を作成している。その理念を踏まえて地域との触れ合いを大切にする取組を実践している。また、運営者は人材育成に力を入れ、人事考課を採用して職員の意欲向上を図ると共に、法人全体で資格取得のための勉強会を行い、資格取得と能力向上を支援している。利用者の高齢化が進んでいるが、日々元気に過ごせるよう職員は温かいケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務が忙しくあまり意識できていない。	全職員で話し合い、これまでの理念を見直し、新しい理念を作成している。その理念を踏まえて地域との触れ合いを大切にする取組を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しているので、にこにこサロンへ参加させてもらったり、花見にも参加出来る。夏祭りでは施設訪問もして貰える。又、近くの保育園との交流もある。	自治会の行事である、にこにこサロンへの参加や近くの保育園児との交流、地区の花見への参加等、地域との交流を深めている。また、地区の祭りの際には、神輿や獅子舞が立ち寄るなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花見やサロンでの交流時に、質問や情報があれば分かる範囲で伝えている。又、講演や勉強会での資料があれば会議時に報告したり、参加への案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催で、自治会長をはじめ民生児童委員、地域包括支援センター、家族、元介護相談員の参加がある。運営状況、研修報告、事故報告やヒヤリハットを報告したり、出席者からの意見等も参考にして運営に反映させている。	会議では運営状況や行事予定等の報告があり、メンバーからは、夕食の時間帯についての意見や食事の献立等についての質問があり、運営に反映させている。会議にはほとんどの家族が参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する疑問や分からないことがあれば、電話での確認や必要があれば出向いて話を聞いたりしている。	市の担当者とは、運営上の課題や疑問点等について相談や助言、指導を気軽に電話でやり取りできる関係を築いている。また、市が主催する研修会等に積極的に参加して、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年の研修に参加し職員全員で拘束しないことで意思統一をしている。ただ、状況により必要があれば家族への了解を得てから検討する。	職員は内外の研修に参加して、身体拘束の弊害について学び、理解を深め、身体拘束をしないケアに全員で取り組んでいる。また、法人全体としても身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表が毎年研修に参加している。職員会議や申し送りで報告伝達をしている。入浴時やトイレ時等の身体介助の際には怪我やあざなどが無いかの確認もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し職員に周知している。その後、職員会議などでも再度繰り返すことで理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には契約書および重要事項説明書で説明して同意を貰っている。年度ごとの介護保険制度の変更や利用料などの変更がある場合には都度書類にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一回の運営推進会議の席や都度来所の際の申し入れ、質問には迅速に対応している。次の会議の際に答えたり、事業所だけでは対応出来ないことは本部に相談して報告している。	運営推進会議にほとんどの家族が参加しており、意見や要望を表す機会となっている。また、会議終了後に家族だけの話合いの場を設け、要望等を引き出す取組を行っている。それらを運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末の職員会議で意見を出し合い、改善したり、業務の見直しを行い、利用者にとって良い方法を話し合っている。	職員会議やミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、人事考課による面接を年2回行い、賞与や給料に反映させ、職員の意欲向上につなげている。出された意見や要望を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で賞与、給料に反映されている。同時に良かった点や今後の改善点を伝え、個々のやる気を出している。又、休憩が取れなかったり時間外の業務や研修参加時には手当で対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加を促したり、職員自ら希望の研修には参加できスキルアップできる。法人内の資格取得のための研修もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の研修や、ブロックごとの打ち合わせでの交流、福祉施設職員研修、県や市主催の研修参加等での交流や意見交換ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせから入所に向けた段階で本人様への面会、家族からの情報で何が問題かや希望を聞くことで、スムーズな施設生活ができるように信頼関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様やご家族様への面会、施設見学をして頂くことで家族の希望を聞き本人様が不安なく生活できるように説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前から本人様の情報をしっかり把握することで、何が出来るか、何を希望されているか、又、入所後も都度問題点を把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	以前に比べ介護度も下がり、レクや作業、個別ケアでの散歩や歩行訓練、詩吟の得意な方には時々披露してもらう。そのほか歌集を見ながら皆と歌ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や行事に参加してもらうことで、日頃の状態を説明したり、行事等での移動介助を手伝って頂くことで触れ合ってもらっている。又、現状を理解してもらっていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺へのドライブや、なるべく面会を多くしてもらったりしている。県外から年に2度程帰省して下さる方もある。	家族と一緒に買物に出掛けたり、自宅周辺をドライブすることもある。また、家族や知人、友人が多く来訪してもらえるように談話室の活用等を工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時や作業時は気の合う利用者様同士で座ってもらっている。レク時などにも一人一人に声かけしながら孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方や退所された方には面会に行ったり、その後の状況を家族に確認したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを使用し、本人様への聞き取り、家族からの情報、生活歴等を考慮し、本人の思いに寄り添うようにしている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の一部を採り入れ、利用者の思いや意向、暮らし方の希望等を細かに聞き取り把握に努めている。また、家族や関係者からの情報も収集して参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取れる方には本人に確認しながら、又、本人の様子を観察したり家族の要望を確認したりしてプランの見直しの必要性を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員がお一人おひとりの身体、精神面の状態変化がないかを毎日観察している。何かあれば職員同士で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	聞き取れる方には本人に確認しながら、又、本人の様子を観察したり家族の要望を確認したりしてプランの見直しの必要性を把握している。	本人や家族と十分話し合い、職員や関係者のアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、状況に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケアプランはいつでも見られるように全員分のファイルがある。本人の言動は詳しく言われた言葉で記録する。職員間で記録に対する力量は違うが、都度話し合い見直し変更をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が高齢で受診できない方には付添いをしたり、家族対応の受診時に施設車を使用して貰っている。		

宮崎県宮崎市 グループホームほのぼの天満

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、一人ずつではあるが、にこにこサロンへの参加で作業や歌体操などが出来る。花見などの行事には家族共々参加させてもらっている。気候や天気が良ければ近隣の保育園などへの散歩でのふれ合いがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどのの方が往診を利用されている。往診時には状態の報告をし、下剤や眠剤等の薬の変更の確認もする。必要があれば電話連絡もして対応の確認ができる。	本人や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。ほとんどの利用者がこれまでのかかりつけ医の往診を受けており、往診前にFAXで情報を伝え、適切な医療が受けられるよう連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列の訪問看護との契約があり、毎週木曜日の訪問時に一週間の状態の報告と変化時の対応に対する指示を貰っている。必要があれば主治医との連携もしてもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の必要があれば関係病院と主治医とも相談し、体調や本人様に関する注意事項等の報告でスムーズに治療が出来るようにしている。系列の病院があるので連携はしやすい。入院後も定期的に確認することで早期の退院の目途をつけ、施設での対応方針を検討することが出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対しては都度看取りに対する考えの確認と意思の確認はしている。訪問看護や主治医とも連携できる。現在受診の方にも急変時の対応が難しく往診できる主治医の検討をお願いした。	利用開始時に本人や家族にホームの方針を説明し、同意を得ている。医師や家族、職員、訪問看護が連携し、方針を共有して支援している。看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日バイタルチェックし普段との違いが無いかを確認している。又、研修に参加して救命処置や応急処置の勉強もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して訓練はあるが、最近は大きな災害が多い。日時は未定だが県の防災講座が予定されている。11月17日に消防訓練と災害時の訓練を予定している。基本は被害が大きくなる前に本部から救助避難が予定してある。	年2回の防災避難訓練や業者による防災機器の点検を定期的に行っている。災害時には本部から支援を受ける体制を整えているが、地域との協力体制が十分とは言えない。	災害発生時には地域との協力体制が不可欠であり、地域の消防団や近くの保育園、近隣住民に働きかけ、協力体制を整えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心が強い方には声掛けのみで後は本人に任せている。何も言わず起床時の交換を習慣づけることで汚染パンツの交換は出来る。ただ、排便の確認が出来ない。	管理者は日々の業務の中で職員に利用者の人格を尊重し、名前の呼び方や言葉遣い等に配慮するよう指導している。特にトイレの誘導や入浴時には利用者に恥ずかしい思いをさせないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えのできない方には表情や身体状態を考えて対応している。自分でカーテンを閉めたりして明るさを調節される方がある。聞けばレク時に何がしたいかや、何が食べたいかを言われる方もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の時間の流れは決まっている。希望で昼寝をされたり、新聞を読まれたり、自由にソファでテレビを見て過ごされる方もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人だけは毎朝服を選ばれる。他の方は職員が色合いや好みを考えて選んでいる。季節の変わり目には衣類の入れ替えを家族にお願いする。起床時には整髪身だしなみを整えている。全員移動散髪利用でカットや髪染めをされる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食材を購入し、毎食手作りしている。飲み込みや咀嚼嚥下の悪い方には刻んだりミキサー食の提供もある。職員と一緒に作業が出来る方は無いが、お盆拭きをして下さる方はある。	高齢化が進み、食事介助の必要な利用者が増えており、職員はさりげなく介助をしながら、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう支援している。後片付けやお盆拭きを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定で増減があれば主食で調整している。水分も一日1000cc以上を目標にしているが少ない方には飲み物を変えたり声掛けをする。咽る方にはトロミ剤の使用もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で出来る方はしてもらいが、確認と仕上げはしている。他の方は口腔ケアシートやスポンジを使用する。系列の歯科往診や歯科衛生士による口腔ケアで歯の状態の確認もある。必要なら都度往診もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方が定時の誘導見守りを要しているが自分で行かれる方もある。時間帯により使用オムツを変えることで料金減少になった。8月に入所された方は終日布パンツにパットで対応できている。	排せつチェック表を活用して利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。おむつを減らす取組も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく負担の無い排便が出来るようにDRと相談して下剤の調節をしている。特に新入所者様の調整が難しい。水分を摂ってもらったり、食事面でも麦飯にしったりして工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大体の予定は決まっている。体調や汚染状況、本人の希望等で都度変更は出来ている。ゆっくり入浴してもらうために午前・午後に分けて職員にも負担なく介助できるようにしている。利用者様の入れ替わりがあれば都度変更している。	入浴は本人の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。入浴を拒む利用者には、日時を変更したり、タイミングを合わせて声掛けをするなど工夫をして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室で昼寝をされる際には障子などで仕切ったり照明を消すことで落ち着いて休んでもらえるようにしている。又、明るさが気になる方は自分でカーテンを引いたり、夜間も暗くして過ごされる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は必ず薬情を確認し、量や種類の変更があればすぐに周知する。見やすいようにファイルすることで終日すぐに確認できる。体調変化があればすぐに主治医、訪問看護とも連絡し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日午前中はレク活動、午後は昼寝をされる方もある。出来る方はレク室で洗濯物をたたまれる。詩吟の得意な方には時々唄ってもらったり個別ケアで職員との会話や縫物他で個々にも触れ合いがある。個人で新聞を取られる方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良ければ個別ケアでの散歩に出かける。少人数で初詣やドライブに行ったり、地区行事の春の花見には家族同伴で参加させてもらっている。	天気の良い日には近くの公園を散歩したり、家族の協力を得てドライブに出掛けたりしている。地区の花見には家族同伴で参加して、地域の人々と交流をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解で小遣いを預かっている。ドライブの際のおやつ代や外食した時に支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話を掛けられる方は無いが、遠方の家族からかかれれば都度事務所で話をしてもらっている。字を書かれる方はあるが、手紙を書いたりされる方はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きで、前面に神社の森があり木々や季節の草花も見られる。夏場は日差しが強く、冬場はすぐに日陰になるが、空調やカーテンで室内温度や明るさを調節している。又、テレビ視聴時やCDを流す際にも音量調節はしてある。	採光や湿・温度、換気等、利用者が快適に生活できるよう配慮が行き届いている。談話室にはソファを置き、テーブルには季節の花を飾るなど、季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼談話室、レク室ソファ等でテレビを見たりして自由に過ごしておられる。日中は和室で昼寝をされる方もある。気の合う方と同じテーブルにすることで会話が弾むようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員ではないが、居室には馴染の家具やテレビ、寝具を持ちこまれている方もある。状態の変化に伴いベッドの位置を変えたりして使いやすいように都度変更することがある。	本人や家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。なじみの家具やテレビ、寝具等を持ち込み、安心して生活ができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一階はトイレや洗面台が少なく、食後はどうしても混雑する。自分で行ける方には奥のトイレを使用してもらうこともある。場所が分からないも動作は出来る方はその場所までの誘導をしている。		